

政務活動費 集計表【会派支出】

会派名 無所属 山崎昭夫

9月分

研究研修費	調査旅費	資料作成費	資料購入費
5,340 /			
広報・広聴費	人件費	事務所費	その他の経費
合 計			5,340 / 円

政務活動費 報告書【会派支出】

会派名

無所属 小崎 昭夫

支払日	令和7年9月3日			
支払先	JIAM (みずほ銀行送金で支払)			
活動に要 した経費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)			円
	研究研修費	JIAM	研修費(+旅送料)-食費	
	調査旅費		7/28~29実施	
	資料作成費		加西市町長等	
	資料購入費		議会議員特別セミナー	
	広報・広聴費		(7,300円+440円-2400円)	
	人件費			
	事務所費			
	その他の経費			
			合 計	5340 円

(領収書添付欄)

領収書は次頁

領 収 書

長野市議会 無所属 山崎 昭夫 様

金額 7,300 円

但し、令和7年度第2回市町村長等・議会議員特別セミナー
の 研修に要する経費
として上記の金額を領収いたしました。

令和7年9月3日

〒520-0106
滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号

公益財団法人全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所
分任出納役

領収書No. 599

+ 振込手数料 一食度
前頁等に詳細

令和7年度

第2回 市町村長等、議会議員特別セミナー

領収書詳細(+振込料)

手紙

コピー

ご利用明細

いつもご利用いただき
ありがとうございます

ただいまご利用の明細は下記のとおりでございます。どうぞお確かめの
うえ大切にお持ち帰りください。なお、裏面もあわせてご覧ください。

年 月 日	取扱店番号	機械・処理番号	銀行番号
070903	222040181	0143	
店舗番号	口座番号		
09	***	03000	
お取引内容	ご利用手数料 (消費税込)	お取引金額	
お支払		¥7,740	
お取引時刻	お取引後残高		
15:16	*****		
みずほ銀行			
受取人 サイ)セ)ンコクシチヨウソンケ様			
依頼人 ヤマザキ アキオ 様			
振込日 07-09-03			
振込金額 ¥7,300			
振込手数料 ¥440			
0903015			
XXXXXXXXXXXX 付につき長野 税務署承認済			

八十二銀行

ご利用明細

いつもご利用いただき
ありがとうございます

ただいまご利用の明細は下記のとおりでございます。どうぞお確かめの
うえ大切にお持ち帰りください。なお、裏面もあわせてご覧ください。

年 月 日	取扱店番号	機械・処理番号	銀行番号
070903	222040181	0143	
店舗番号	口座番号		
09	***	03000	
お取引内容	ご利用手数料 (消費税込)	お取引金額	
お支払		¥7,740	
お取引時刻	お取引後残高		
15:16	*****		
みずほ銀行			
受取人 サイ)セ)ンコクシチヨウソンケ様			
依頼人 ヤマザキ アキオ 様			
振込日 07-09-03			
振込金額 ¥7,300			
振込手数料 ¥440			
0903015			
XXXXXXXXXXXX 付につき長野 税務署承認済			

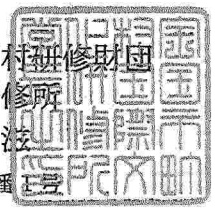
八十二銀行

次頁(後日粉17の旨で送付いたしたものと可)

全国研第282号
令和7年6月26日

長野県 長野市議会 議長様

公益財団法人全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所
学長 荻澤 滋
滋賀県大津市唐崎二丁目13番
登録番号 T6040005002305



研修受講決定兼請求書

先にお申込みいただきました貴所属議員の研修受講について、次のとおり決定しましたので、お知らせいたします。
つきましては、以下の事項にご留意のうえ、所要の事務手続等についてよろしくお願い致します。

氏名	山崎 昭夫
コース名	令和7年度第2回市町村長等・議会議員特別セミナー
研修期間	令和7年7月28日（月） ～ 7月29日（火）

1 研修受講に要する経費の納入について

下記金額を、指定期間内に指定口座に振り込んでください。

- (1) 納入金額：7,300円
＜内訳＞ 研修費(①1,300)(課税10%分) 2,600円
食費(課税10%分) 2,400円 → 削除
研修生活動費(課税10%分) 2,300円
(+振込料440円)
- (2) 税区分による内訳：(課税10%分) 7,300円(内税 663円)
- (3) 指定期間： 令和7年7月16日（水） ～ 7月23日（水）
- (4) 指定口座： 滋賀銀行 [REDACTED]
みずほ銀行 [REDACTED]
名義人：ザイ センコクシヨウリツカンシュウ イタン
ゼンコクシヨウリツカンシュウ
(公財) 全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所

- 注1) 振込依頼書の「ご依頼人氏名欄」は、必ず団体名を記入してください。
注2) 貴団体からの振込通知書の送付は不要です。
注3) 振込手数料は、貴団体で負担願います。

派生費甲
報告書



令和7年度

第2回

2025 9/3

市町村長等・議会議員特別セミナー

日々めまぐるしく変わりゆく国内外の情勢の中で、様々な行政課題について学び、施策を提案・実施していくことが求められています。

今回のセミナーでは、各分野でご活躍の先生方からご講演をいただき、改めて現代社会を捉え直すとともに、今後のわがまちの未来や地方行政に求められる役割について多角的に考えていただきます。

多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

共催：地方公共団体金融機構

開催要領

日 程

令和7年7月28日(月)～7月29日(火) (2日間)

場 所

全国市町村国際文化研修所

JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対 象

市区町村長・副市区町村長及び部長級職員等、市区町村議会議員

2日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

募集人数

来所による受講

170人

※途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

オンラインによる受講

50人

※オンラインについては、ビデオ会議システムZoomを使用します。機材(1人1台)やインターネット接続のための環境が必要です。詳しくはZoom公式サイトをご参照ください。

「来所による受講」、「オンラインによる受講」とともに、募集人数を大幅に上回るお申込をいただいた場合は、先着順とさせていただきます。そのため、申込期限前に締め切らせていただく場合があります。その場合は、JIAMホームページのトップページ「受講者募集中の研修」でお知らせいたしますので、適宜ご確認ください。

宿 泊

研修所宿泊棟(宿泊型研修)

※外泊はできません。

経 費

来所受講: 7,300円

左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食1回、昼食1回、夕食1回)、資料等にかかる費用です。なお、事前準備・事前学習及び最終日の昼食にかかる費用は含まれておりません。

オンライン受講: 2,000円

申込期限

令和7年6月19日(木)まで

※先着順のため、申込期限前に締め切らせていただく場合があります。

申込方法

◎JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申込みください。

◎議員の方は、議会事務局を通じて、お申込みください。

◎来所による受講とオンラインによる受講を選択できますので、どちらか一つのみお申込みください。

受講決定

受講の可否については、開講日の約1か月前を目途に通知をお送りします。

経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

問い合わせ先

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部

T 520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL 077-578-5932

[e-mail] kenshu@jiam.jp [ホームページ] https://www.jiam.jp

令和7年
7月
28日(月)

- 11:00～ 入寮受付・昼食
13:00～ 開講式・日程説明
13:15～14:45 **講義** 真の意味での持続可能な都市を目指して
神戸市長 久元 喜造 氏
15:05～17:05 **対談** 地域の魅力を引き出す文学の力
文芸評論家 三宅 香帆 氏
小説家 宮島 未奈 氏
17:50～ **交流会** 夕食を兼ねて、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

令和7年
7月
29日(火)

- 9:00～10:30 **講義** 明日を生きるために一人文知を地域に生かす—近世国学から学ぶ
國學院大學神道文化学部 教授 松本 久史 氏
10:50～12:20 **講義** みんながやりたい場所をつくる廃校活用施設『いいかねPalette』の運営について
株式会社BOOK 代表取締役会長 樋口 聖典 氏
12:20～12:30 閉講・事務連絡

講師紹介

神戸市長 久元 喜造(ひさもと きぞう)氏

1976年に東京大学法学部を卒業し、同年4月に旧自治省入省。内閣官房内閣審議官、総務省大臣官房審議官(地方行政・地方公務員制度、選挙担当)、同自治行政局長などを歴任。札幌市財政局長、青森県企画課長、石川県財政課など、地方自治体でも勤務。2012年11月より神戸市副市長、2013年11月より第16代神戸市長に就任。現在3期目。指定都市市長会会長などの役職も務める。

文芸評論家 三宅 香帆(みやけ かほ)氏

1994年、高知県生まれ。京都大学人間・環境学研究科博士前期課程修了。学生時代に天狼院書店京都支店長を経験。リクルート社に就職したのち、独立。小説や古典文学やエンタメなど幅広い分野で、批評や解説を手がける。デビュー作は2017年『人生を狂わす名著50』(ライツ社)。著書はほかに、2025新書大賞を受賞した『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』(集英社新書)、『ずっと幸せなら本なんて読まなかった』(幻冬舎)、『「好き」を言語化する技術』(ディスカヴァー・ポピー)など。

小説家 宮島 未奈(みやじま みな)氏

1983年、静岡県生まれ。京都大学文学部卒業。2018年「二位の君」で第196回コバルト短編小説新人賞を受賞(宮島ム一名義)。2021年「ありがとう西武大津店」で第20回「女による女のためのR-18文学賞」大賞、読者賞、友近賞をトリプル受賞。同作を含む『成瀬は天下を取りにいくな』(新潮社)でデビューし、第11回「静岡書店大賞」小説部門大賞、第39回「坪田譲治文学賞」、第21回「本屋大賞」など受賞多数。続編は『成瀬は信じた道をいく』(新潮社)、ほかに『婚活マエストロ』(文藝春秋)、『それいけ!平安部』(小学館)。

國學院大學神道文化学部 教授 松本 久史(まつもと ひさし)氏

1967年、栃木県宇都宮市生まれ。國學院大學大学院文学研究科神道学専攻博士課程後期単位取得満期退学。2002年10月より國學院大學に着任。國學院大學日本文化研究所助手、同専任講師を経て、2010年より國學院大學神道文化学部准教授、2017年より同教授。著書に『歴史で読む国学』(ペリカン社)、『神話のおへそ『古語拾遺』編』(扶桑社)、『プレスステップ神道学』(弘文堂)、『新編荷田春満全集』第1・3・12巻(おうふう)、『荷田春満の国学と神道史』(弘文堂)など。専門は国学史・近世神道史。

株式会社BOOK 代表取締役 樋口 聖典(ひぐち きよのり)氏

1981年、福岡県田川郡川崎町生まれ。九州芸術大学音響設計学科卒、九州大学大学院画像設計学科卒。2011年音楽制作会社(株)オフィス樋口を設立。お笑い芸人“どぶろっく”とともにロックバンド“どぶろっかーず”を結成し、2015年メジャーデビュー。2016年故郷田川市にて株式会社BOOKを設立。廃校活用施設「いいかねPalette」の運営で、音楽を軸とした地元・筑豊地域の産業開発・雇用促進に取り組む。ポッドキャスト「歴史を面白く学ぶコテンラジオ」は日本ポッドキャスト大賞、ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS総務大臣賞を受賞し、「日本一のポッドキャスター」として活躍中。

令和7年度「第2回市町村長等・議会議員特別セミナー」時間割

(敬称略)

月日	曜日	1時限 (9:25-10:35)	2時限 (10:50-12:00)	3時限 (13:00-14:10)	4時限 (14:25-15:35)	5時限 (15:50-17:00)	課外 (17:00-)
7/28	月	11:00-12:00 受付 11:00- 昼食 13:00- 開講式 日程説明		【講義】 (13:15-14:45) 真の意味での 持続可能な都市を目指して 神戸市長 久元 喜造 資料あり	【対談】 (15:05-17:05) 地域の魅力を引き出す 文学の力 文芸評論家 三宅 香帆 小説家 宮島 未奈 (15:27のみ)	17:15- 事務連絡・ 入寮オリエン テーション 17:50- 交流会	
				【講堂】			【講堂/大食堂】
7/29	火	【講義】 (9:00-10:30) 明日を生きるために -人文知を地域に生かす- 近世国学から学ぶ 國學院大學神道文化学部 教授 松本 久史	【講義】 (10:50-12:20) みんながやりたい場所を つくる廃校利活用施設 『いいかねPalette』 の運営について 株式会社BOOK 代表取締役会長 樋口 聖典	12:20-12:30 閉講・事務連絡			
		【講堂】					

◎日程は、都合により変更になる場合があります。

(令和7年6月26日現在)

研修担当:

令和7年度「第2回市町村等・議会議員特別セミナー」7月28日～29日

◆研修理由◆

毎回多方面からの実績のある首長の貴重な講演が受講できること。またビジネスマンが携わるまちづくりなど、斬新な講義も受けることができる貴重な機会であったため。また非会派議員として、自身の向上のために受講致しました。

真の意味での持続可能な都市を目指して 神戸市長 久元 喜造氏

令和8年度から、新「総合基本計画」がスタートした神戸市。市長の目指す「持続可能な街づくり」は神戸らしさを前面にアピールすること。つまり「新しいものを作るより、今あるものを賢く使う。」という考え方であるということです。しかも地形までも活用していることにまで都市づくりの着眼点を落とし込んでいるということが、まずとても参考になりました。以降、ご報告致します。「街を広げず」に駅周辺に住宅や公共施設などの便利な機能を集約させそれらを鉄道で繋ぐことで、効率の良い街づくりをしていること。既存のJR、阪急、ポートピア開発で建設されたポートライナーの活用。また一部民営であった地下鉄の公共化を行い、運賃を下げることも実施されました。「街を広げず」人口減少化で空き家や古い住宅・インフラを使い続けることを最優先したこと。

都心部にタワーマンションを乱立させ人口集中させる手法を取らない。居住実態のないものには条例で課税を強化する。海と山を守る。結果ゆとりと利便性を両立させる街づくりこそ、持続可能な街づくりであるとの講義でございました。長野市の強みを生かす。荻原市長の方針と合致するところもあり、大変参考になりました。僭越ながら、私が令和7年3月議会で、駅前開発のタワーマンションで、居住実態のない住居には課税を増やすというのは、神戸市の例を挙げたものでした。この久元市長の考えは長野市においても有効と考えます。直接、久元市長のその他の政策を研修でき、大変参考になる貴重な機会でした。

地域の魅力引き出す「文学の力」～対談～ 文芸評論家 三宅 香帆氏
小説家 宮島 未奈氏

小説家の宮島氏の小説での対談でしたが、登場人物が琵琶湖などの観光大使になってパンフレットなどが制作されています。宮島氏と琵琶湖・地域の魅力とのかかわりは「住んでいるからこそ知っている日常の『尊さ』を物語と通し書き換えたことでした。何もないと地元を言わず、地元を愛し誇りを持って暮らす主人公「成瀬あかり」を描くことで読者に滋賀・琵琶湖は面白い場所なんだ。」「行ってみたい！」と思わせる、所謂「シビックプライド」を醸成したことの素晴らしさです。

さらに「観光地」ではなく「生活圏」として主人公に出会いそうな日常使用している駅や百貨店、琵琶湖の風景を物語作品に登場すること。これにより、特別な観光資源がなくても「登場人物が息づく物語の舞台」という新しい価値観を生み出したことが特筆すべき点でありました。何もない・・・という発想ではない価値観で地域の魅力を引き出す手法は参考になりました。アニメーションでのいわゆる「聖地」ではなく、小説での「聖地」を宮島氏は想像し、新しい価値が生まれました。

視点を変えてみることで、日常を当たり前とせず、感謝し、大切にすることからこそその発見や魅力があるということは、とても受講してよかったと思いました。

明日を生きるために～人文知を地域に生かす～

近世国学から学ぶ

國學院大學教授 松本 久史氏

先生の考える「近世文学」の視点は、単なる古文書の研究ではありませんでした。「近世国学」を通じて、それは現代の様に「変化が激しく、正解が見えにくい時代」をどう生き抜くか？という、むしろ「明日への知恵」にあふれた講義でした。参考になった点を挙げてまいります。まず、本来に立ち返る力です。国学の祖・本居宣長は、仏教や儒教といった「外来の理論や理屈」ではなく、日本古来の純粋な心や言葉を見つめ直そうとしました。現代もあふれる情報に流されがちな部分があります。それを「外来の理屈」と重ね合わせてまず、一度それらを脱ぎ捨て「自分自身の素直な感情」や「目の前の現実」をありのままにまず見ることで、進むべき方向が見えてくるのではないかと説いておられました。

先ほどの宮島未奈氏の対談での話にも通じる部分がありました。松本先生が重視する国学の精神も「身近なもの」、例えば言葉や郷土の中に普遍的価値を見出す。」ことです。つまり、明日のために荒れ割れができることは「背伸びせず、流されず、自分の足元にある大切なものを、まずは今一度、見つめ直すこと。」から始まるということを学びました。穏やかに、流されないことから新しい発想が生まれるということにつながるという点で、お二人のまるで違う講義と思いきや、共通なものであることを含め、大変参考になりました。

みんながやりたい場所を作る廃校利活用施設『いいかねPaLette』の運営について

(株)BOOK 樋口 聖典氏

かつては炭鉱の町として知られた、福岡県田川市の廃校となった学校を使った取り組みです。「どこでもできる、何でもできる、誰でもできる世界をつくる。」が運営にかかわるスタッフのミッションとのこと。廃校を使い大都市に行かなくても「自分のやりたいこと」を追求する環境「自由になれる場所」を提供すること。

儲かるかよりも、わくわくするかを優先し、大人に対しても子供の夏休みの様に好きなことに没頭できる居場所をつくること。多様な人々が集まることで食堂ができたり、宿泊施設ができたり、音楽作成場所ができたり……。様々な人々が集まることで「新しい産業や文化」が自然に生まれる拠点を狙っているとのことでした。この施設を通じて樋口さんは「一人ひとりが自分の人生の主導権を取り戻し、やりたいことに挑戦できる世界、居場所」を目指しているとのことでした。既成概念に捉われず、何かが生まれるわくわく感を生み出す施設に「廃校」が変わったことで、施設がまるで生き返ったかのような躍動感。大変刺激を受けた講義でした。まじめに、結果、型破りからの産業が生まれること。かつて炭鉱で活気があった田川町での樋口さんはじめ参加者、スタッフの皆さんの考え方に大変共感しました。